

日本水大賞委員会同時発表

令和 6 年 3 月 15 日  
水管理・国土保全局河川計画課

## 第 26 回日本水大賞の各賞を決定

～水循環の健全化に貢献する様々な活動から特に優れたものを表彰～

日本水大賞委員会（名誉総裁：秋篠宮皇嗣殿下）は、第 26 回日本水大賞の応募総数 80 件の中から「大賞」の受賞者を玉川学園サンゴ研究部（東京都）に、「国土交通大臣賞」の受賞者を肱川流域会議 水中めがね（愛媛県）に決定しました。

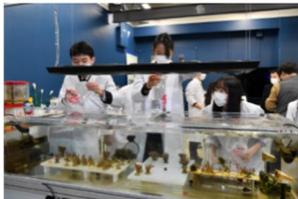
### 【日本水大賞】

活動主体：

玉川学園サンゴ研究部（東京都）

活動名称：

生徒の夢を実現する玉川学園サンゴプロジェクト  
～沖縄の美しい海を守りたい～



学園の水槽で飼育されたサンゴを株分けし、沖縄伊江島への移植に向けて準備をする小中高生たち



中高生自らがダイビングをして、学園のサンゴを移植する様子



サンゴを移植した伊江島の海をバックに集合写真

### 【国土交通大臣賞】

活動主体：

肱川流域会議 水中めがね（愛媛県）

活動名称：

難治水の肱川で進めた流域治水活動  
～四半世紀にわたる活動の軌跡～



流域のリスクを踏まえたまちづくり構想をする高校生



民間企業ボランティア協同によるレキ河原再生



肱川の理解を深めるため現地で説明を受ける高校生



毎月開催される例会の状況

活動内容：

玉川学園サンゴ研究部として、「研究班」「移植班」「広報班」の3つのチームを構成し、活動を行っている。企業、地域の方、テレビで活動を見た方など多くの方々に支えられつつ、学園で育成したサンゴを生徒自ら伊江島へ運搬、移植に挑戦。地球環境保全のために貢献できる人材育成を目指し、プロジェクトを進行中。今後の展望の一つとして、サンゴの産卵を目指す。

活動内容：

肱川の源流から河口までの現状把握に努め、流域の小中高校に出向いて様々な自然災害等の勉強会を行ってきた他、出水頻度の高い肱川の原風景である植物の生えないレキ河原の再生活動などを通じて「自然豊かな肱川流域を引き継ぐ思い」を次世代の地域の子供達に伝えるため四半世紀に渡り活動。

### 【日本水大賞とは】

日本水大賞は、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる 21 世紀の日本と地球を目指し、水循環の健全化に貢献するさまざまな活動を対象に、社会的貢献度が高い、水防災、水資源、水環境等の分野における活動の中から、特に優れたものを表彰し、広く国民に発信することを目的として、平成 10 年に創設されました。

【問合せ先】国土交通省水管理・国土保全局河川計画課

課長補佐 <sup>いちかわ</sup> 市川、課長補佐 <sup>よねざわ</sup> 米沢、河川情報係長 <sup>あごう</sup> 吾郷

電話：03-5253-8111（直通 03-5253-8446, 内 35322, 35375, 35395）